

平成 29 年度学内教育 GP プログラム事業経費 成果報告書

区 分	萌芽型
事業名称	キャリア支援における新たな学びの仕組み
取組代表者名 担当者名	<p>* 事業担当者は全員記入してください。</p> <p>学生・キャリア支援センター 副センター長 山田 眞二 副学長，学生・キャリア支援センター センター長 高崎 みどり 学生・キャリア支援センター 准教授 中川 まり 学生・キャリア支援センター 特任講師 川端 由美子 学生・キャリア支援センター アソシエイト・フェロー 服部 典子 学生・キャリア支援課 課長 富山 弘 学生・キャリア支援課 副課長 河野 隆 学生・キャリア支援課 係長 山口 久郎</p>

1. 成果の概要

実施した事業の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、当初設定した目的・目標に照らし、3 ページ以内で、できるだけ分かりやすく記述すること。必要に応じ、図表を用いても構いません。

【目的】

本事業は、中期計画 29 年度計画（案）「キャリア支援に係る体制の整備」【K14】に関連するものであった。目的は、キャリア支援活動において、学生が主体的にピア・サポートグループを組織化して、企業との連携を含むキャリア支援行事の企画・運営することにより、双方向的活動、自律的活動、協働的活動などのコンピテンシーを高めることであった。

【具体的実施内容】

本事業は本学がキャリアデザインプログラムの中核として掲げるキー・コンピテンシーの「自律的活動」と「協働的活動」を高めるために、学生・キャリア支援センターの教職員と学生が双方向的に活動を行った。実施時期と活動内容は次の通りである。

- ・ 4 月～5 月 参加メンバーの募集とキックオフミーティングの実施
学生・キャリア支援センターが実施するキャリア支援行事においてメンバーの募集を行い、16 名の学生がメンバーとして参加した（文教育学部 9 名、理学部 1 名、生活科学部 6 名）。5 月にキックオフミーティングを行い、参加者それぞれが本プログラムで取り組んでみたいことを共有するとともに、今年度実施するキャリア支援行事（内定者懇談会、OG 懇談会）と年間計画を確認した。
- ・ 6 月～9 月 メンバーによる具体的な企画案作成
メンバーの学生による全体ミーティングおよびグループミーティングを行い、内定者懇談会と OG 懇談会それぞれの具体的な企画案を作成した。
- ・ 10 月～12 月 行事の準備・実施
メンバーの学生が作成した企画案に基づき、内定者懇談会と OG 懇談会が実施された。学生・キャリア支援センターの教職員は、学生の企業訪問の準備、会場手配、学内広報などをサポートした。

〈企業訪問〉

学生が OG 懇談会の打ち合わせのための企業訪問を行った。

10月19日（木）文部科学省国立教育政策研究所

10月23日（月）株式会社ぐるなび

10月26日（木）アビームコンサルティング株式会社

11月1日（水）日本放送協会

〈内定者懇談会〉

実施日：10月24日（火）10月25日（水）10月26日（木）

内容：第1部（12：30～13：10）内定者が就活体験談を語る

第2部（13：20～14：00）内定者と参加者がグループに分かれてフリートーク

運営協力内定者：8名

〔内訳〕学部生6名（文教育学部3名、生活科学部3名）

院生2名（比較社会文化学専攻1名、ライフサイエンス専攻1名）

参加学生数：合計73名

〈OG 懇談会〉

実施日時：各日とも16：50～17：50

実施日	運営協力企業団体
11月14日（火）	株式会社ぐるなび
11月15日（水）	アビームコンサルティング株式会社
11月17日（金）	厚生労働省、文部科学省
11月22日（水）	日本放送協会

内容：第1部/OGからのお話 第2部/質疑応答などフリータイム

参加学生数：合計81名

・1月～3月 振り返りと報告書の作成

学生、教職員が分担執筆し、『平成29年度お茶の水女子大学学内教育 GP プログラム事業（萌芽型）ピア・サポート事業報告書』（総89ページ）としてまとめた。

【効果と意義】

本事業が大学全体に及ぼす効果として、活動内容を踏まえてまとめる。本事業の目的を再掲すると、本学がキャリア教育において育成するコンピテンシーのうち、「自律的な活動」と「多様な社会集団との協働（ネットワーク力）」に特化し、これらをもつために、教職員が仕組み作りをサポートした上で学生が主体となり活動を行うことであった。具体的な活動を挙げると、(1) 学生が相互にキャリア支援をするためのピア・サポート組織の設立・運営、(2) ピア・サポートグループと産業界 OG との交流、(3) キャリア支援行事の企画である。

本年度の活動では、昨年度（平成28年度）の活動を踏まえて、4月より活動を開始したことにより、昨年の活動を経験したメンバーを含めた体制作りを早期から進めることができた。活動メンバーは、文教育学部、理学部、生活科学部の3学部の学生で構成され、学年も1年生から4年生まで全学年の学生が活動に参加をした。学部学年を問わず学生同士のつながりを持つことと、そのなかで自分の考えを意見として述べる経験は、多様な社会集団との協働の基礎となるコンピテンシーを育む機会となったと考える。学生が執筆した報告書においても、自身の進路選択について「先輩方のアドバイスから、思い込みやイメージで決めつけるのではなく、とにかくいろいろな業界・企業について見聞きして、自分に合うものを探していくことが

大切だと感じた」と、多様な価値観を受け身の姿勢ではなく自ら探索することの重要性に気づいたことが伺える

また、本事業に参加した学生は、全員が自分の意志で参加しており、参加時点で明確な目標を持っていた。その目標のいくつかを挙げて整理すると、「お茶大生のキャリア観をよりよいものにしたい」「お茶大生の意識改革」「お茶大生の欲しがるような情報をしっかりイベントを通して伝達する」など“学内の学生生活全般に関すること”と、「ビジネスマナーを身につけたい」「授業・サークル以外で自分を成長させたい」「OGの先輩から色々なことを学びたい」など“自身の成長やキャリア選択に関すること”であった。これら学生の参加動機より、本事業の目的である「自律的な活動」に学生が期待していることが示唆された。そして、学生が本事業に参加することで、自身の学生生活をより豊かにすることや、今後の進路選択に役立てたいと望んでいることが示されたと考える。

お茶の水女子大学全体に及ぼす意義として、ピア・サポート活動に参加した学生は、キャリア支援行事の企画や運営を通して、自分らしい役割やリーダーシップを発揮することを期待し、その機会を生かして自己成長する姿が見られた。参加当初は不安を持ちながらミーティングに臨む学生もいたが、学生が活動（行動）を通して自らの意識の変化を実感することができたのは、本事業が年間を通したプログラムであった効果と考える。

さらに、このプログラムの効果は、本事業に関わった学生だけではなく、学生が企画したキャリア支援行事（内定者懇談会、OG懇談会）の参加者にも及んだ。キャリア支援行事に参加した学生は、内定者や本学卒業生（OG）など身近なロールモデルとの交流に加えて、キャリア支援行事の企画・運営に携わるメンバーの学生の行動に触れ、自律や協働という新たな価値観を意識する機会を得ることができた。平成30年度以降においても、ピア・サポート活動が引き継がれていくことにより、学生のキャリア形成に役立つ波及効果が期待できると考える。

2. 今後、申請を予定している競争的資金

本経費は、外部の競争的資金等を獲得するための準備経費として助成しました。今後、競争的資金の申請を予定している場合は、資金名を記入してください。

学外の競争的資金の申請は予定しておりません。